

戸田市教育委員会会議録		
招集期日	令和7年12月18日(木)	
場所	戸田市役所 教育委員室	
開会	12月18日 午後3時00分	
閉会	12月18日 午後5時10分	
教育長	戸ヶ崎 勤	
教育長・委員出席状況	戸ヶ崎 勤	出席
	仙波憲一	出席
	木村雅文	出席
	長道修	出席
	浜田美咲	出席
説明員 (出席者)	梶山参事、重信教育総務課長、河西学務課長、	
	水沼教育政策室担当課長、石橋生涯学習課長、	
	中沢生涯学習課課長	
書記	教育総務課総務担当 我妻副主幹	
傍聴人	4名	

会議の経過及び結果

教育長	<p>早いもので本年も残り 13 日となり、今年最後の定例教育委員会となりました。長い酷暑から短い秋、そして気がつけば道路には落ち葉が積もり、季節の移ろいが年々速くなっていることを実感します。</p> <p>さて、少し長くなりますが、ここで令和 7 年の 1 年間を振り返ってみたいと思います。まずは、1 月、トランプ氏が第 47 代アメリカ合衆国大統領に就任し、国際情勢が大きく動きました。また、八潮市で道路陥没事故が発生し、社会基盤整備の重要性が改めて意識されました。2 月、大船渡で森林火災が発生し、北海道東南部では記録的な大雪となりました。3 月、MLB が東京ドームで開催され、開幕戦に大きな関心が寄せられました。その 3 日前のドジャース対巨人戦では、大谷翔平選手が 2 点本塁打を放ち、東京ドームが大いに沸きました。4 月、大阪・関西万博が開幕しました。私事ですが、2 度目の国会となる、衆議院文部科学委員会に参考人として出席させていただきました。5 月、備蓄米の放出が開始され、食料安全保障への関心が高まりました。6 月、ミスター・プロ野球・長嶋茂雄氏が逝去され、多くの方がその功績を偲びました。7 月、参議院選挙では、SNS を活用した選挙活動が話題となり、少数野党が議席を伸ばし、自公が過半数を割る結果となりました。8 月、戦後 80 年の節目を迎え、全国で平和について考える機会が多くありました。郷土博物館では、それに合わせ「戸田と戦争企画展」を開催し、多くの方に平和の尊さを伝えることができました。9 月、車いすテニスの小田凱人選手が全米オープンシングルスで優勝し、史上最年少での「生涯ゴールデンスマッシュ」を達成しました。10 月、高市早苗氏が日本初の女性首相に就任し、国内政治の大きな節目となりました。大阪・関西万博が閉幕し 2,529 万人を超える来場者がありました。また、坂口志文氏がノーベル生理学・医学賞を、北川進氏がノーベル化学賞を受賞し、国内は大きな喜びに包まれました。11 月、日本で初開催となるデフリンピックが開会し、多様性と包括を象徴する大会となりました。また、18 日には大分県で大規模火災</p>
-----	--

が発生しました。そして 12 月、年末の風物詩「新語・流行語大賞」の年間大賞が発表され、高市首相による「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」が選ばれました。今年で 30 回目となる日本漢字能力検定協会の「今年の漢字」では、初めて「熊」が選定されました。また、住友生命の創作四字熟語の最優秀賞には、コメの高騰を受け、政府が備蓄米を放出したことになんて「古米奮闘」(孤軍奮闘) が選ばれました。

1 年前と寸分違わず繰り返されるこの流行語大賞や今年の漢字などのように恒例行事に過ぎゆく年の無事を思います。新年を前に心の澱を浚ってくれるのは季節の話題の効用かもしれません。

教育界に目を転じますと、6 月には給特法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）の改正があり、教職調整額の引き上げや時間外労働の縮減が示されました。また、9 月には、次期学習指導要領の方向性を示す「教育課程企画特別部会における論点整理」が、10 月には、これから教師の養成・採用・研修の方向性を示す、「教員養成部会の多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策に関する論点整理」が取りまとめられました。これらの会議すべてに關わらせていただき様々意見を述べきました。

本市においては、教育環境の充実と子供たちの学びの向上に向け、様々な取組を進めてまいりました。ネクスト GIGA にあたり、全市の 8,760 台に及ぶタブレット端末の大規模更新を実施しました。学校施設についても、小・中学校のバリアフリー化およびトイレの洋式化工事を推進するとともに、戸田南小学校の増築工事を完了させ、学習環境のさらなる向上を図りました。

教育の質の向上や教職員の働き方改革に関しては、学校現場の負担軽減と効率化を一層進めました。加えて、人材確保が課題であった養護教諭不在時には派遣看護師の委託化を進めるとともに、医療的ケアを必要とする児童の受け入れ体制を整備し、誰もが安心して学べる環

境づくりにも取り組みました。

教育施策の方向性を示す上では、「好きを育み 得意を伸ばす 戸田の教育」を理念とする「第5次戸田市教育振興計画」の策定に向け、子供の意見を吸収しながら、子供たちの多様な学びを支える教育施策を体系的に整理しました。また、戸田型PBLの深化を図るため、中学校にレーザー加工機を導入し、体験的・創造的な学びの機会を拡充しました。

また、子供たちの学びと生活を支える施策として4月から市内中学校の給食費無償化に伴う助成金事務を実施し、8月からは笛目小学校の調理業務を委託化するなど、学校給食の充実や効率化を進めました。

さらに、生涯学習の推進に向けて、「3つの”わ”でみんな輝く 戸田～学びの輪、市民の和、支えの輪～」をキャッチフレーズとする「戸田市生涯学習推進ビジョン」の策定に取り組みました。公民館では、職員企画・立案の「子供大学とだ」が定員を大きく上回る申込みをいただき、参加した子供たちからも満足度の高い内容となりました。図書館では、今年度よりPFSを導入した指定管理者による運営が始まりました。

なお、先週12日付で、新曽公民館が文部科学省の優良公民館表彰の内示を受けました。これで何と市内の3館すべてが文部科学省の優良公民館表彰を受けるという大変な栄誉に浴しました。大変誇りに思っています。

今年も全国各地、さらには海外からの視察も受け、本市の教育の取組を広く知っていただいた一年でした。7月には三原じゅん子内閣府特命担当大臣が喜沢小を、10月には松本文部科学大臣が新曽中を視察されました。文部科学大臣の視察はこれで4人目となりました。

来年2026年は、丙午です。丙午に生まれた女性は、「気性が激しく、嫁ぎ先に災いをもたらす」といった迷信があることから、過去の丙午

	の年は、出生数が激減する現象が起きており、60 年前の昭和 41 年は前年より 25% も減少しました。このように丙午は、情熱や強さを象徴する特別な干支とされています。是非ともこれまでの様々な歩みが実を結ぶ年にしていきたいものです。来る令和 8 年が皆様にとって実り多い一年となりますことをお祈り申し上げ、年の締めくくりの挨拶とさせていただきます。
教 育 長	それでは、ただ今から、令和 7 年第 1 2 回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいております。御異議がないようでしたら承認ということでおよろしいでしょうか。
各 委 員	了承
教 育 長	それでは、会議録に御署名をお願いします。
各 委 員	署名
教 育 長	では、「教育委員提案」について御報告いたします。浜田委員、木村委員から御提案のありました「小中学生への認知症の理解と高齢者との交流について」、事務局より説明願います。
説 明 員	<p>浜田委員から御提案のありました小中学生への認知症の理解について、および、木村委員から御提案のありました高齢者との交流について説明いたします。</p> <p>2 ページを御覧ください。まず、認知症の理解と高齢者との交流について御説明いたします。教育課程上の位置づけとして、小学校・中学校とも家庭科の学習指導要領の内容に高齢者との関わりについて記載があります。</p> <p>3 ページを御覧ください。高校の家庭科では、認知症などにも触ることという文言が記載されています。</p> <p>4 ページを御覧ください。総合的な学習の時間においては、小・中学校とも、学習活動について、国際理解教育、情報、環境、福祉・健</p>

康などの横断的・総合的な課題についての学習活動を行うことと記載があります。市内各小・中学校においても PBL の活動において、高齢者をテーマに探究を進めるグループも多くいます。

5 ページ。埼玉県では、認知症に関する基本的な知識や認知症への人への接し方を学ぶことにより、認知症の人やその家族を地域で支える応援者となるための認知症センター養成講座が開かれています。市民向けの講座も行われていますが、学校向けの講座もあり、認知症とはどういうものか、認知症の人と接するときの心構え、認知症介護をしている人の気持ちを理解するという内容を小学校 45 分、中学校 60 分で学ぶことができます。

6 ページ。認知症センター養成講座について市内の学校の取組状況についてです。小学校はコロナ前には実施していた学校もありますが、現在、実施している学校はございません。中学校については、喜沢中が実施しています。

7 ページ。先ほど、触れました総合的な学習の時間の中で行われている高齢者との交流について御説明します。写真のように PBL の中で高齢者が過ごす施設見学に行ったり、地域を活性化するために高齢者の方に話を聞いたりしながら、学びを深めています。

8 ページ。昔遊び体験学習や地域の方を呼んでのお囃子体験学習など、様々な体験学習を通して高齢者と交流することもあります。

9 ページ。市内各中学校では、社会体験チャレンジ事業 3DAYS の中で高齢者施設に行き、交流を図る生徒もいます。

10 ページ。高齢者疑似体験学習として、視野が狭まったり耳が聞こえにくくなったり等の高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方を理解するため授業を行う学校もあります。

11 ページ。認知症の理解や高齢者との交流等については、学習指導要領に沿って取り組んでいますが、課題もあります。以前にも御説明させていただきましたが、求められている〇〇（マルマル、以下略）

	<p>教育が増加している現状があります。学習指導要領総則では、「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」として、以下のような教育があげられています。また、明記はありませんが、人権教育や情報教育等の教育があげられています。また、学習指導要領に記載はありませんが、○○教育といわれている教育が数多くあり、これらの内容は、各教科等に溶け込む形で存在しております。</p> <p>12ページ。求められる○○教科等が増加し多様化する中で、カリキュラム・オーバーロードの現状があり、内容が多岐にわたる中で、十分な時間を確保することが難しい状況や、単発で講師を呼んで話を聞く特別授業的な扱いであることが多い状況などが見られます。（←講師に対する批判とも感じるので）また、○○教育に関しての明確な育成すべき資質・能力や評価方法が不明確であり、準備等にあたっては教師の負担も多くあります。このような状況の中、カリキュラム・マネジメントの推進が重要な鍵となります。</p> <p>各学校が学校運営協議会の意見や学校評価も踏まえながら、子供たちにどのような資質・能力を身に付けさせたいかを明確にし、一貫性のある方針のもとに、産官学と連携した特色ある取組として、引き続き様々な教育活動を実施していきたいと思います。</p>
教育長	御提案をいただいた浜田委員さんと木村委員さんからいかがでしょうか。
委員	<p>ありがとうございました。現在、多くの御家庭において核家族化が進んでおり、高齢者と日常的に触れあう機会がほとんどない子供が多いと思います。戸田市は平均年齢が若い自治体であり、高齢者の割合は少ないかもしれません、それでもやはり確実に高齢化は進んでいくと思います。そのような状況において、認知症に関する知識がない方や、むしろ先入観のある方も多いのではないかと思います。</p> <p>以前、認知症サポーター養成講座を受けたところ、認知症の方の世界の考え方や、認知症の方に対してどのように接するかがとてもわか</p>

	<p>りやすく学べる講座でした。是非多くの学校で学校向けの講座等を取り入れていただけたら、市全体で高齢者の方を支えていけると思い提案いたしました。</p> <p>高齢者や福祉をテーマにしたPBLの取組があり、よいことだと思いました。やはり実際に関わってみると分からぬことが多いと思いますので、そこで深堀して理解を進めていただけたらと思います。</p> <p>また、授業だけでなく、「放課後子ども教室」において地域の高齢者の方に来ていただき、昔遊びなどを通して交流ができたらいのではないかと思いました。</p>
教育長	認知症について理解することだけでなく認知症の高齢者と共に生きていくということが大事なのだろうと思いますが、どのようにその場を作ることができるでしょうか。
説明員	認知症には様々な段階がある中で、例えば症状が軽い方は認知症カフェに行ってアクティブに活動されている方もいらっしゃいます。そういうところに子供たちが行ってみることも、可能であると考えられます。今は、認知症の方や高齢者の方の居場所が市内にあるため、担当部と連携をして、認知症の高齢者との共生に向けた取組を進めていくということが考えられると思います。
委員	認知症イコール高齢者ではなくて、若年性の方もいらっしゃいます。いわゆる若年の40代・50代の認知症の方には、多くの方々に助けてもらいながら日常生活を送れている方もいらっしゃって、そういう方の中には講演活動をしている方もいらっしゃいます。認知症について理解する取組として、そういう方に来ていただくことは一案にあるかと思います。
教育長	教育政策室の方で、アンテナ高く取り組んでもらいたいと思います。ありがとうございました。
委員	核家族化が進む中で子供達の生活の中で高齢者と触れ合う機会自

	<p>体が少なくなっていると思います。その分を学校で少しでも補っていただけたとよいと思います。</p> <p>例えば昔話をしてもらったり、あるいはグループになって対話をしたりしていただくのもよいですが、肉体的な理解も大事であると思っています。報告の中にあるゴーグルや重りをつけることは、全員に取り組んでいただきたいぐらいです。引き続き高齢者の理解を進めていただきたいと思います。</p> <p>子供達が少しずつ社会と接する中で、高齢者に対して優しい気持ちになって理解が進んでいくように、学校で時間数を増やしていただけたらと思っています。よろしくお願ひします。</p>
教育長	カリキュラム・オーバーロードの問題とも関係してしまうところですが、そうした時間を作ることは現実的に可能ですか。
説明員	高齢者の方と触れ合うことに特化するのではなく、ある学びの中で高齢者と触れ合っています。例えば、総合的な学習の時間や家庭科等の中で、各学校が地域に出て行ったり、逆に来ていただいたりすることを行っている状況です。
教育長	市内の小学校では、運動会等の学校行事等で高齢者と触れ合うことをやっているのでしょうか。
説明員	現在はPBLの一環として取り組んでいます。運動会でも取り組んでいましたが、現在運動会の形態が変わってきているため、全てとは言えない状況です。
教育長	コロナ禍以降、変わってきたのだろうと思います。一方で、昔遊びはいかがでしょうか。
説明員	昔遊びは生活科で実施しますが、地域の方等をお呼びして教えていただくこともありますが、校内の教職員で取り組むこともあります。やはりコロナ禍の時期に来ていただくことが難しくなったことが一つのポイントになっており、必ず実施していた高齢の方との関わりは

	少なくなっています。
委 員	<p>今日のお話を伺って、前半と後半が分かれるかなと思いました。</p> <p>やはりこういう高齢者と触れ合うことは、先ほど御説明いただいた体験活動を通して実感することになると思いますが、私は触れ合うだけでよいのではないかと思います。家庭にお年寄りがいない子供もたくさんいるかもしれない中、触れ合うだけでもそれが勉強なのではないかと思います。触れ合ってどうだった、楽しかった、嫌だったとか、そのようなことを聞いてどうしようこうしようと考えるような教育は不要であり、むしろざっくばらんに高齢者と、普段接しない人達と接して、「ああこういう不自由があるのだな」等と感じることが学びではないかという気がします。</p> <p>ただ、さきほど説明があったように、カリキュラム・オーバーロードの問題については、取捨選択の話になると思います。こんなにたくさん様々なものが出でてきていますので、「うちは無理です、できません、しません。」という姿勢でよいと思いました。</p> <p>報告の中に、学校運営協議会の意見や学校評価を踏まえながら、子供達にどのような資質能力を身につけさせたいかを各学校が明確にして、一貫性のある方針のもとで、必要ならば産官学との連携もやっていくとあります。ここに私なりの答えがあり、ほっとしました。勿論、救命救急教育やがん教育等の○○教育は、全て大事で価値がありますが、学校のそれぞれの特色のもとで取捨選択すればよいではないのか、学校教育の根本は同じでも、実際の取組は様々異なってよいのではないかと思いました。ありがとうございました。</p>
教 育 長	<p>今伺った内容は、次期学習指導要領の議論とも関係しています。あくまでも学校に裁量権があって、いかにそれを活かしながら、それぞれ学校が余白を活かして、創意工夫しながらよりよいカリキュラムを編成していくかということが、今特に議論の対象になっています。</p> <p>資料に「学校運営協議会の意見」と書いてありますが、これがない</p>

	<p>と校長が変わるたびに大きく変わってしまう可能性があり、重要な鍵となっています。例えば、思いを持った校長がきて学校改革に取り組んだが、その校長が異動したらこれまでの取組がなくなってしまったという事象がよく見受けられました。</p> <p>そのような中、学校の裁量権を活かしながらも説明責任を果たし、長きにわたって支えてくださる地域の理解を得ながらカリキュラムを編成していくことが非常に重要です。今御意見をいただいた、何を取捨選択するかということについては、学校の裁量に任せていく今、大事なテーマになっていますので、改めて本市の教育もここに力点を置いて取組を進めたいと思いました。</p> <p>本市では、次期学習指導要領を見据えた研究開発学校に4校指定されています。もちろん、共通で取り組まなくてはならない大事なこともあります、それぞれの学校が持つ独自性も活かしていくかなくてはいけません。その両立が今求められています。ありがとうございました。</p>
委 員	<p>御説明ありがとうございました。</p> <p>やはり高齢者については、学習指導要領で小学校の5年生、6年生の家庭科からスタートしていきます。発達段階から考えても小学生が認知症を理解することは少し厳しいだろうと思っていて、学習指導要領に定められているとおり進めるべきかと感じました。</p> <p>総合的な学習の時間では、身のまわりの高齢者との暮らしを知り、支援していく取組かと思いますので、学校の内外で様々な関わりを持ち、PBL等で発表していくことも非常によいことだと思っています。</p> <p>以前の金融教育の報告でもありましたが、教師にはこういった方面への専門性はないため、分からぬことが多いです。分からぬ場合、例えばこの場合は、地域包括支援センターの講師を招いて来ていただくとすると、学校に呼ぶと60分ぐらい、一コマ以上取られてしまいます。しかし、全く何もしないのではなくて、単発でもいいから呼ぶ</p>

	<p>こと自体も大事なことだと思っています。時間は単発であっても、その内容を学校でフォローしていけばよいのではないかと思います。</p> <p>教育委員会としてできることは、施設や人との繋がり等、地域と学校の関係性を見つけ、協力することになると思います。</p> <p>やはり体験してみて初めて分かることは結構あると思うのです。親の介護等で、初めてグループホームや認知症のことなどを知って、こういうことを知らないで大人になってしまったなど反省しています。やはり高齢者への理解がある子供達が増えてくれると、今後の高齢者も下の世代にお世話になることが上手くいくのかなと思っています。</p>
教 育 長	<p>体験しないとなかなかわからない部分があると思います。身近で高齢者と生活していれば、否応なしに経験するかもしれません、核家族化が進行する中でそういうのを経験しない子供達が多いため、だからこそ大事なのだろうと感じました。</p> <p>私から一つ、質問したいと思います。高齢者と交流することの教育的な意義について、わかりそうでわからない部分ありますが、どのように考えていますか。</p>
説 明 員	<p>高齢者との関わりにおいては、昔ながらの知恵といった、教科書を超えた学びがあります。一方で、そういったところは意義付けして「教える」のではなく、交流したときに子供達一人ひとりの心で感じ取るものかなと思っています。</p> <p>私自身の体験としても、やはり教科書にはない生活の知恵を教えてもらったと強く感じています。</p>
教 育 長	<p>高齢者が生活で得てきた知恵を知ること、これが生きた知識になるということです。高齢者との関わりを通じて学校知学力を生活知学力に転換し、活きて転移する学力になるのだと思います。ありがとうございました。</p> <p>教育的な意義ではなくて、福祉的な意義という部分では、いかがで</p>

	しょうか。
説明員	<p>今回このテーマを設定するという中で、逆に高齢者にとって、子供と関わることで生まれる意義とは何だろうと考えてみると、おそらく三つにまとめられると思っています。</p> <p>一つは心の健康が向上することです。やはり子供達は癒しや喜び、生きがいを与えてくれる存在ですので、とかく一人でいて鬱状態になったり、凄い孤独感に苛まれたりするような高齢者にとっては、何にも変えがたい薬になるのではないかなと思います。</p> <p>もう一つは認知機能や身体機能の維持です。子供達との会話や遊びによって脳が刺激されますので、その点においては認知機能の低下が抑えられたり、体を動かすことによって筋肉の衰退を少しでも抑えられたりするのかなと思っています。</p> <p>三つ目は社会的役割の再獲得です。一度仕事をリタイアして一人で暮らしている中で、また子供達に教えるとか、伝えるとか、時には高齢者でも横断歩道に立って見守りをやってくれているような方々も現在いらっしゃいます。社会から役割を与えられることで、生活に張り合いが出てよいことなのではないかと思いました。</p> <p>先ほど来話がありますように、戸田市は本当に国内でも有数の若い都市で、お住まいもコンパクトになってきており、なかなかご自分の両親や配偶者の両親と暮らすという形態がない中ですが、子供と関わることによって、まさに生きがいやQOLが向上していくことが高齢者にとっての良さかなと思いました。</p>
教育長	ありがとうございました。
委員	特に高齢者の方にとっては、子供の力は大きいと思います。子供にとっても、高齢者の方は親とは違って何をしても褒めてくれる存在だと思いますので、自己肯定感も上がって、お互いにとってよい相乗効果があるのだろうと思います。

教育長	<p>ありがとうございました。他にはよろしいですか。</p> <p>今後の戸田市の教育の取組に様々な御示唆をいただいたと思います。校長会等で、今日の話をまとめて是非進めて欲しいという要望が出ていることを必ず伝えてください。是非よろしくお願ひします。</p> <p>以上で、教育委員提案の方は終わりにしたいと思います。</p>
教育長	<p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして4件の報告がございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年12月戸田市議会定例会 教育関連一般質問について ② 中学校選択制による入学希望校最終申込状況について ③ 第24回昔のくらし展の開催について ④ その他 <p>秘密会以外の詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了したのちに伺います。</p>
説明員	<p>報告事項① 「令和7年12月戸田市議会定例会 教育関連一般質問について」報告いたします。</p> <p>私からは、12月戸田市議会定例会について概要を報告いたします。なお、資料では、会期が昨日17日となっていますが、国からの交付金の関係で24日まで会期が延長されました。</p> <p>それでは、まず、資料1ページの補正予算について、主なものを申し上げます。</p> <p>歳出では、学校給食課において学校給食センターと単独校調理場の賄材料費が物価高騰により当初予算額が不足する見込みでありますことから、学校給食センターで28,032千円、単独校調理場で44,565千円をそれぞれ増額するものです。また、令和8年度からの学校給食費等の公会計化等に向けて、令和7年度に徴収管理システムの構築経費、付随する手数料・保守費に係る予算を計上しました。新聞報道に</p>

	<p>もありますように、来年4月から公立小学校の給食費無償化が本格実施されるとのことです。このため、令和7年度当初予算計上時点からは状況が大きく変わりましたので全ての費用について減額補正及び債務負担行為を廃止するものです。</p> <p>続いて、新たに令和8年度事業として取り組むための債務負担行為補正として、資料ではNewと記しています。学務課では、令和8年度から新小学1年生に医療的ケア児対応が必要な児童がいることから、当該小学校に看護師を派遣するための「医療的ケア児対応看護師派遣業務」と、教育政策室では、日本語指導が必要な児童数が顕著な小学校内に「日本語初期指導教室」を設置し、指導にあたる日本語指導員を任用するための「日本語初期指導教室運営業務」です。</p> <p>2ページにまいりまして、一般質問では、6名の議員から9件の質問があり、それぞれ資料のとおり、教育部長の代理として答弁しました。宮内そうこ議員からは「化学物質過敏症・香害への対策について」、河合ゆうすけ議員からは「外国人学校児童生徒保護者助成金制度について」、2ページから3ページにかけまして「学校給食について」、「学校給食のおかわりについて」、「戸田市内の学校の防犯対策について」、4ページにまいりまして、花井あきこ議員からは「学校教育について」、4ページから5ページにかけまして、野澤茂雅議員からは「中学校における飲料水自動販売機の導入について」、竹内正明議員からは「障がい者の就労支援について」、小金沢優議員からは「学校トイレの清掃について」の質問がありました。</p> <p>特に学校現場に影響のある質問としましては、給食のおかわりに関するもの、1人1台端末の持ち帰りに関するもの、特別支援学級の就労支援に関するものなど多岐にわたっています。それぞれの質問への学校現場での対応につきましては、校長会議において伝達し、一人一人の教師に確実に伝達するようお願いをしたところです。</p> <p>私からは以上です。</p>
説明員	報告事項② 「中学校選択制による入学希望校最終申込状況について」 報告いたします。6ページを御覧ください。

	<p>10月21日に、最終選択期間を締め切り、集計を行いましたところ、申込者が最終的に定員を超えた学校はありませんでしたので、今年度につきましても抽選会を実施することなく、全員が希望校に入学できることとなりました。</p> <p>なお、入学通知書は、1月中旬頃に各家庭に発送する予定です。</p> <p>以上でございます。</p>
説明員	<p>報告事項③ 「第24回昔のくらし展の開催について」説明いたします。</p> <p>資料7ページを御覧願います。戸田市立郷土博物館3階特別展示室等において、「第24回昔のくらし展 はっけん 昔のくらし」を開催します。</p> <p>内容は、「電気・ガス・水道」という現在の生活には欠かせないものがなかった頃、人々は自然の力を巧みに利用して道具を作り、工夫して生活していました。その道具は、今では見かけなくなったものが増えましたが、現在使われている電化製品等のもととして改めて見ると、新しい発見があるかもしれません。そうしたことを踏まえ、本展示では、電化以前の道具と初期の電化製品との比較、土間や茶の間等の住居の再現、写真パネルをとおして、主に昭和の人々のくらしの変化と戸田の町並みの移り変わりを紹介するものでございます。</p> <p>期間は、令和8年1月17日（土）から3月8日（日）までの49日間です。</p> <p>次に8ページを御覧ください。関連事業として、「昔の道具を使ってみよう」と題した講座や展示解説を行います。この企画展は、博学連携事業の一環でもあり、小学3年生の学習「人々のくらしのうつりかわり」をサポートする企画となっています。</p> <p>なお、2月の教育委員会定例会終了後に、教育委員の皆様に昔のくらし展を御覧いただくよう教育総務課と調整しております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>

教 育 長	次に④ その他ですが、事務局より何かござりますか。
事 务 局	<p>机上にプレゼンテーション大会のお知らせを置かせていただいております。</p> <p>今年度のプレゼンテーション大会は1月24日に戸田市文化会館大ホールで行います。先ほど教育委員提案の報告の中でPBLの話もさせていただきましたが、各校の代表がPBLの取組を発表する会になりますので、是非御参観いただければと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
教 育 長	他にはありますか。
説 明 員	特にありません。
教 育 長	<p>では順番に御質問をお受けしていきたいと思います。</p> <p>1番目の戸田市議会の一般質問についてということで、先ほどの次長の説明を受けて、何か御意見、御質問等がありましたらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委 員	<p>学校給食というのは、均等に上手く配膳することだけでも、本当に配慮が要ることですし、担任としては適正に配膳しているかどうかという非常に難しい点があると思います。</p> <p>その上で、残ったものをどのようにおかわりをさせるかについては、ある程度の決まりの中で、担任が臨機応変にやっていけば、子供達もそれなりに理解しながら、順番や偏りがないようにしていくと思うのです。これまで学校の担任や管理職も含め上手くやっていたように感じますが、学校の状況はどうなのでしょうか。</p>
説 明 員	<p>学校に聞き取りをしたところ、当該教諭もこれまで上手くやっていたのですが、クラスが変わった年度当初に、前年度よりも提出物の状況がよくないと感じたとのことでした。</p> <p>本人は、現在の指導の在り方として適切ではなかったと認識し、管</p>

	<p>理職の指導のもと、速やかに運用を見直しました。</p> <p>本来的には1人1食分を配膳します。しかし、好き嫌いや1食分の量を食べられない子もいますので、最初に食べる前に減らす対応を取るほか、子供が配膳する中で、毎回均等に配膳して容器を全部空にできるとは限らないため、残ったと考えられます。</p> <p>そのような中で、どのクラスもルールを決めて、誕生日の人を優先したり、班ごとの順番にしたりして対応している状況です。本来の量を食べさせていないわけではなく、食べ終えた上でのおかわりについてのルールということです。</p>
教 育 長	いずれにしても給食と関わりのないことで食べさせたり食べさせなかつたりすることは適切ではないため、今後もそのような指導はあってはならないものです。
委 員	わかりました。
委 員	<p>端末の持ち帰りについては、一律に強制するものではないということですが、おそらく学校によって、学校で充電できる設備がある学校とない学校があり、設備がない学校は家庭で充電させるように持ち帰らせる対応を取っていると聞きます。</p> <p>理解はできるが不公平だと思う保護者の声も耳にします。充電設備がない学校に対しては、今後整備等していく予定はあるのか質問させていただきます。</p>
説 明 員	充電庫は全てあります。現在、持ち帰って学習に使ってもらうことが基本的な流れにはなっております。御家庭で端末をお持ちの方や、様々な御家庭の御事情で持ち帰りを控えたい方は、御相談いただいた上で学校から「大丈夫ですよ」と御返事をさせていただいています。
教 育 長	学校によって違いがあることに疑問を持つ方がいらっしゃるという話はよく分かるため、校長会議でこのような話が出ていることは伝えておいてください。

教育長	それでは2番目の中学校の選択制についての申し込み状況についてはいかがでしょうか。この数年間抽選になつていませんよね。
説明員	なつております。最後に抽選したのは令和3年になります。
教育長	それはなぜなのでしょうか。数が減っているというわけでもなく、上手く均等に分かれていますよね。
説明員	<p>倉庫群の多いエリアにマンションが建ったことで希望人数の均整が取れたところや、学校が新しく建て替わった後から希望者が増しているところもあります。</p> <p>ただ、全てのエリアで今後も大丈夫とは言い切れない状況です。これから中学校の建て替えがありますので、その期間に学区が隣接する中学校の希望者が増えた場合に転用可能教室の状況等、様々なバランスをみて受入数を判断することも考えられます。</p>
教育長	中学校から私立に行く方は増えていますか。
説明員	4月の定例教育委員会で報告していますが、例年約9%くらいです。現時点では急激に増えているという状況ではありません。ただ授業料無償化などの変化によって変動する可能性はあります。
教育長	<p>今後は無償化の状況などにより変動はあるのかもしれませんということで、御承知おきいただけたらと思います。</p> <p>では続きまして、3番目の昔のくらし展についてはいかがでしょうか。これは2月の定例教育委員会のあとに、是非教育委員の皆様と一緒に伺いたいと思います。展示がとても工夫されているので、見ていただきたいと思います。SNS等での発信もよろしくお願ひいたします。</p> <p>何かございますか。よろしいですか。</p> <p>ではその他ということで、先ほどあったプレゼンテーション大会の部分についてはいかがでしょうか。これは広く公開していますよね。</p>

説明員	基本的には教育関係者と保護者の方に御案内しておりますが、市外の方等で御希望がありましたら、御一報いただければと思います。
教育長	手前味噌ですが、小学生のスキルの高さに毎回感動しています。非常に素晴らしい大会で、毎年企業の方に審査いただき指導・講評をいただいています。その話を聞くだけでも価値がありますので、是非見ていただけたらと思います。
教育長	続きまして、専決処理事項の報告「報告第6号 令和8年度特別支援学級設置計画について」説明いたします。
説明員	<p>令和8年度特別支援学級設置計画について報告いたします。</p> <p>昨年度、芦原小学校の特別支援学級、種別は知的障害、及び自閉症・情緒障害を設置いたしました。これにより、市内全校に知的及び自閉・情緒の特別支援学級設置されました。今年度に関しましてもお住まいの通学区域の学校に通うことができます。</p> <p>説明は以上です。</p>
教育長	<p>何か御質問等がありましたら伺います。</p> <p>これは着任した時から実現したいと申し上げており、ようやく全ての学校に設置されました。一方でインクルーシブ教育の視点からは分けていくのがいかがなものかという流れもあり、難しい問題をはらんでいます。とはいえ、専門的できめ細やかな指導ができる体制が整ったという部分では、大事なことだと思っています。</p>
教育長	次に次第の6、その他の次回の教育委員会日程案について事務局より説明をお願いしたいと思います。
事務局	次回の教育委員会の日程につきましては、1月22日（木）午前9時30分からの開催と考えておりますが、お諮りいたします。
各委員	了承

教育長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次にその他ですが、事務局から何かございますか。
事務局	ございません。
教育長	では委員の皆様から次回以降の提案について伺いたいと思います。
委員	教育相談について、最近の件数や相談内容の傾向も含めて、状況を教えていただきたいです。また学校のバリアフリーの整備が進んでいくと思いますが、その状況を教えていただきたいです。
教育長	前半は教育政策室、後半は教育総務課から報告いたします。
委員	<p>今日も戸田型PBLという言葉がよく出てきました。それと対となって個別最適な学びという言葉もよく使われていますが、個別最適な学びとはそもそも何だろうかと疑問を持っています。</p> <p>個別最適な学びとは、一人一人に合った学びを追求するのだろうと思った時、PBLはみんなで意見を出し合って取り組むのですが、「自分にとって最適な学びではないからPBLに参加しない、一人で取り組みたい」といったらどうなるのだろうと思いました。</p> <p>文科省の考え方と戸田市としての考え方があるかもしれません、そのあたりをまとめて教えていただければと思います。</p>
教育長	<p>用語は、令和3年の答申の中に定義されていますが、この個別最適な学びを語るときには、個別最適な学びだけではなく「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」などと使われるが多くなっています。</p> <p>ときに個別最適だったり協働的な学びだったりというのが対になって行われており、それらを一体的に充実することが大切です。いずれにしても個別最適な学びの内容については、改めて教育政策室にてお願いいいたします。</p>
委員	以前教育委員会視察の中で、子供が自分でカリキュラムを作成して

	<p>勉強する「学びの多様化学校」を視察しましたが、これは究極の個別最適の学びといえるのでしょうか。</p> <p>今教育長が仰った二つの対峙するものは、上手く協力させながらトータルでやっていく、という考え方かなと思うのですけれども、先ほど申し上げたのは、二項対立ではなく、二項の協働についてでした。</p>
教 育 長	<p>教育は二項対立で語られることがあります。大事なことは、如何にバランスよくそれを融合させるかです。</p> <p>そのようなことも含めながら個別最適な学びについて再定義をさせていただければと思います。</p>
委 員	きやんばすルームの各校の取り組みについて教えていただきたいと思います。よろしくお願ひします。
教 育 長	こちらは、教育政策室より運用状況やどのように活用されているのか御報告いたします。
委 員	未来の学び応援プロジェクトに3年前から取り組んでいると思いますが、各学校における寄附金の活用状況と成果、現在の進捗状況を教えていただきたいと思います。
教 育 長	いわゆるクラウドファンディングの試みは3年前から実施しています。それぞれの学校で有効活用をしていますが、持続可能性が課題の一つになっています。3年の経過も含めて後ほど御報告したいと思います。ありがとうございました。
教 育 長	<p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは以上で本日の案件すべて終了いたしましたので、本日の定例の教育委員会を終了したいと思います。</p>

	以上のとおり会議の経過及び結果を記し、相違ないことを証するため署名する。
	令和8年1月22日
	教育長
	教育長職務代理者
	委員
	委員
	委員
	書記